

図1. 新富士期のいくつかの大規模噴火における班晶（かんらん石・斜長石）の組成頻度図

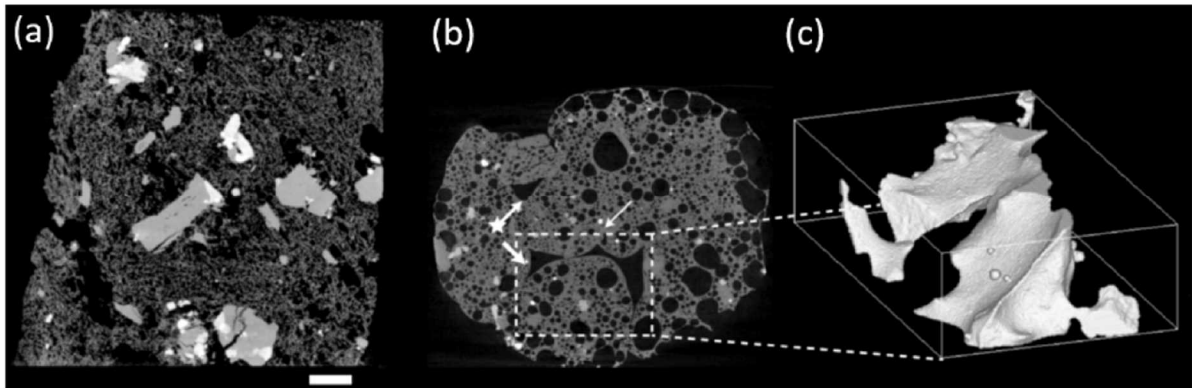


図2. (a) 安山岩質軽石の出発物質, (b) 水蒸気圧 0.077 MPa, 1000°C で 2 時間加熱後の実験産物の X 線 CT スライス像。出発物質の不均質により複数の緩和ユニットが形成され, その隙間に 3 次的に連結した脱ガス通路が形成される。(c) (b)を拡大したもの。(a)右下のスケール: 1 mm。

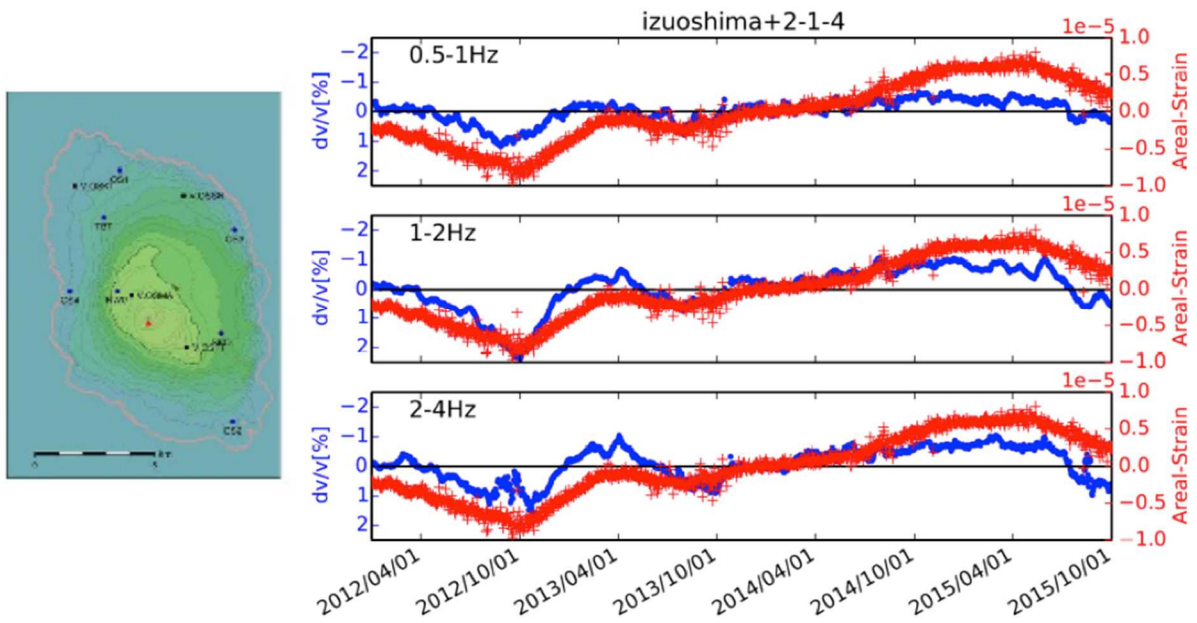


図3. 雑微動の地震波干渉法解析 (伊豆大島)

気象庁の観測点データによる干渉法解析の速度変化量 (全観測点ペアの平均値) の中長期変化と GNSS データに基づく面歪みに高い相関がある

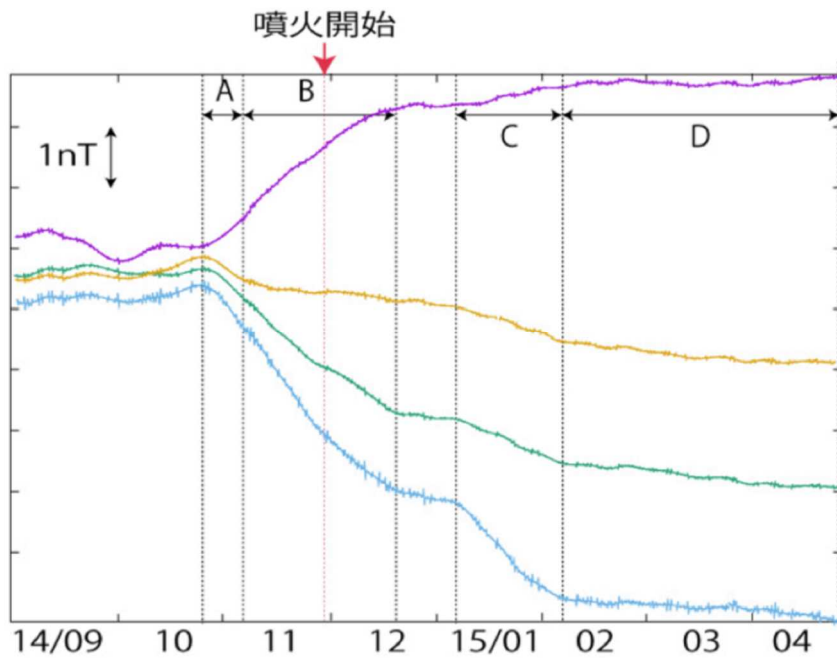


図4. 新たな解析手法から求められた阿蘇山中岳火口周辺の地磁気変化(2014年9月~2015年4月)

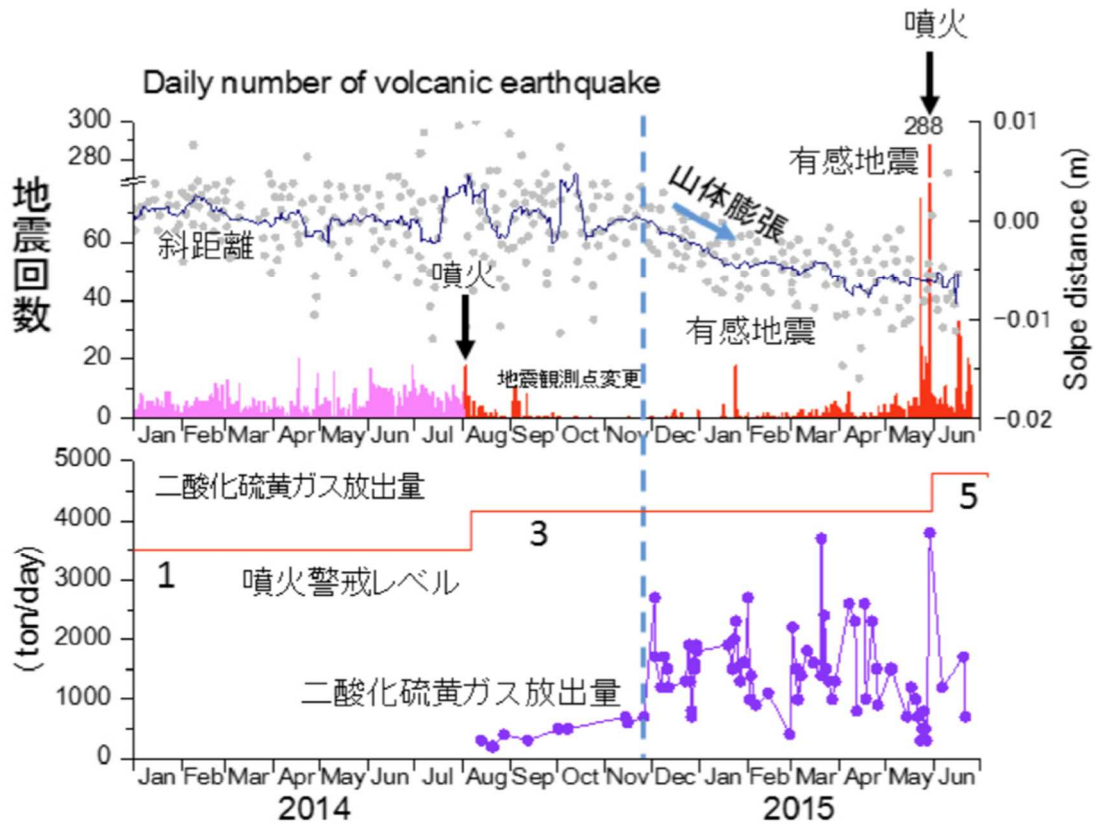


図5. 口永良部島 2014年8月噴火から2015年5月噴火までの火山活動のまとめ
 上段：地震回数及び地盤変動。2014年8月3日以前の日別地震回数は京都大学，それ以降は気象庁による。
 斜距離は国土地理院の屋久島永田と気象庁口永良部島七釜観測点のGNSS観測間のもの。下段：東大・京大
 及び気象庁による二酸化硫黄放出量。

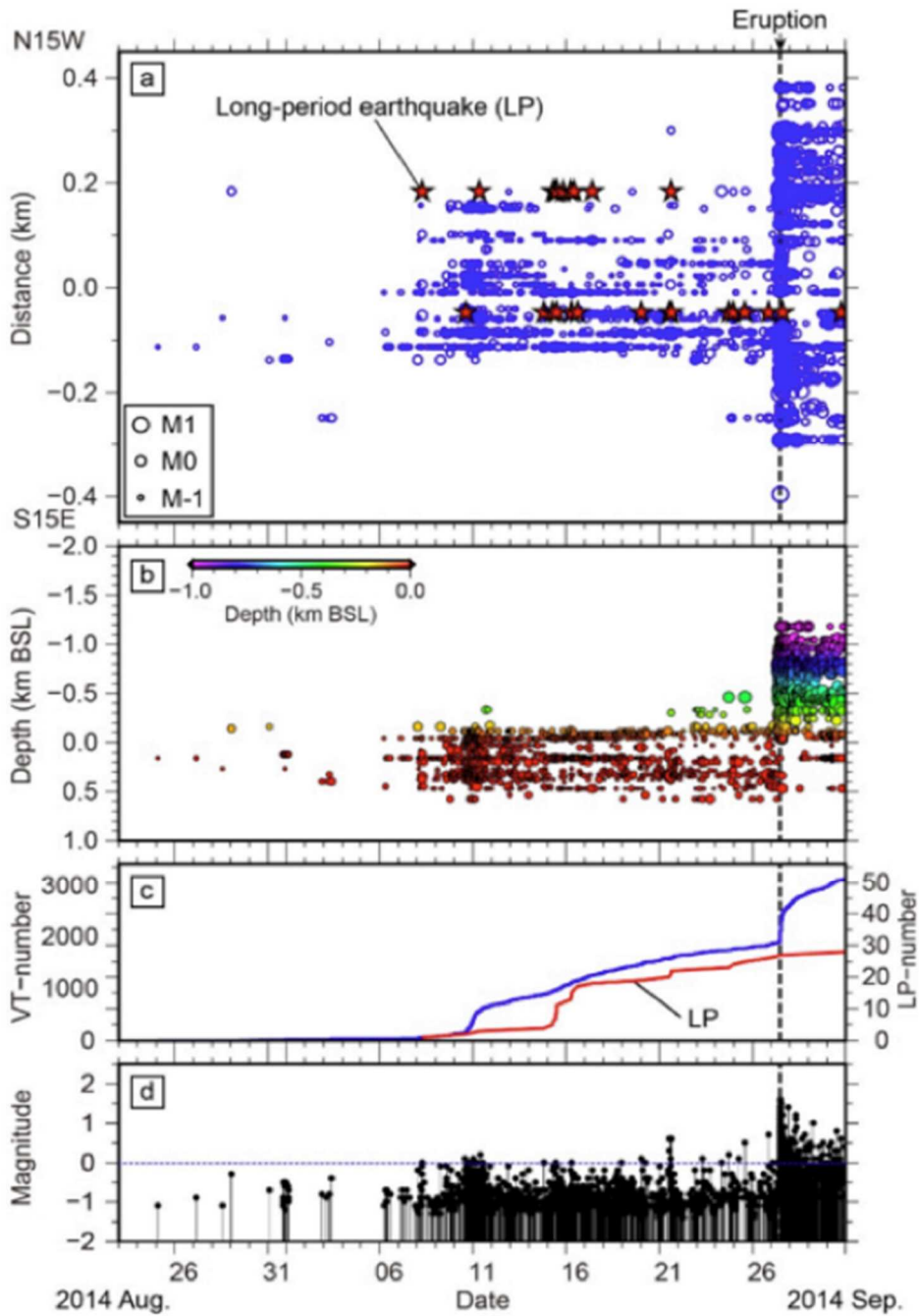


図 6. 2014 年御嶽山噴火前後の山頂直下の地震の時空間発展図

(a) 北北西-南南東方向に投影した地震の時空間発展。縦軸に距離 (km), 横軸に日付を示す。赤星は低周波地震を示す。丸の大きさはマグニチュードによってスケールされている。破線で噴火時刻を示す。(b) 地震の深さ変化。(c) 地震の積算個数の時間変化。青線と赤線が火山構造成地震と低周波地震に対応する。(d) 地震のマグニチュードの時間変化。

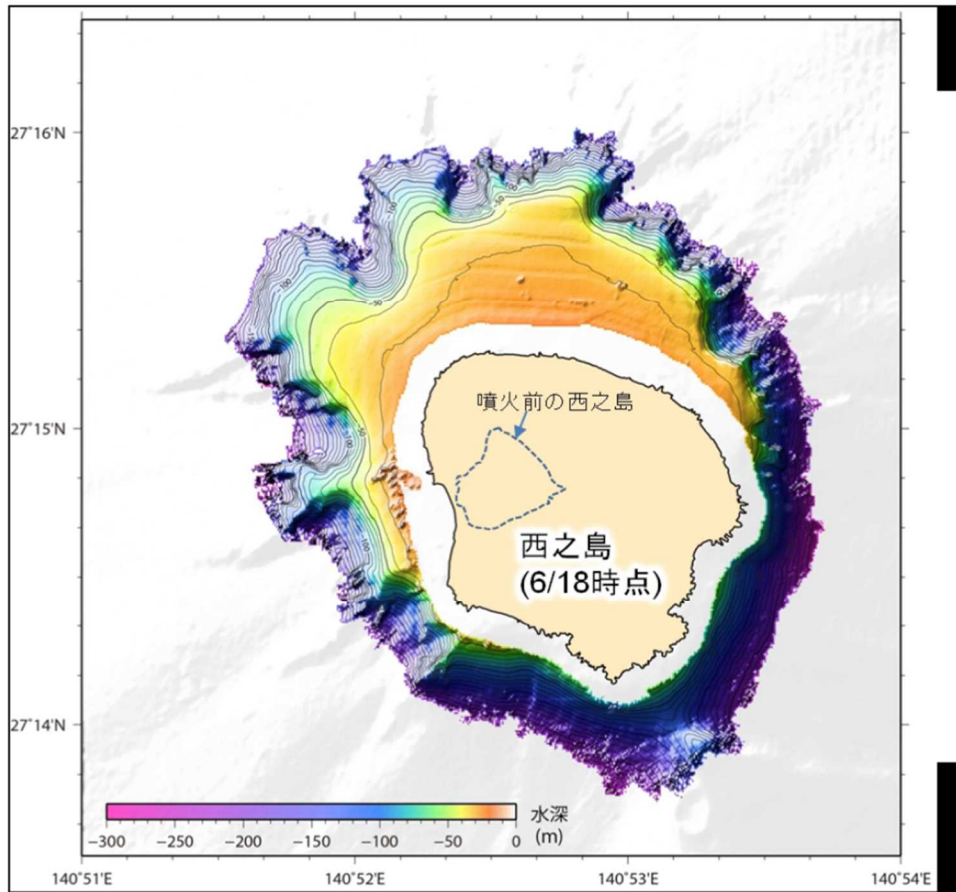


図7. 2016年6月18日現在の西之島の海底地形図